

<白金標準、欧州リスクを受けた売り込みも終わるか・・・>



(出所：オアシス)

8月のジャクソンホールにおいてケビン・ウォーシュFRB議長がタカ派の発言を行った後は、利上げ観測が高まりを見せ、白金標準先物は9653円をピークに抑えられた値動きを続けている。特に原油高に伴うインフレ懸念からFRBとECBは利上げ観測を高める動きを見せるも、欧州ではフランスの財政赤字やディーゼルに欠かせない軽油の価格上昇の悪影響などが欧州経済の悪材料となり、ユーロが9月に入ると下落している。特に白金価格は、欧州市場の自動車触媒需要が30%を占めており、欧州経済の悪材料は白金価格を押し下げる動きに結びついている。過去にも2012年ギリシャの財政懸念を受けた南欧リスクで、白金価格は下落する動きを見せている。しかし当時のドラギECB総裁がユーロ防衛で「やれることは何でもやる」との一言からリスク緩和の動きに貴金属価格は巻き戻しを見せ、白金標準先物も底入れから巻き戻しを見せている。今回もECBやFRBの金融政策の違いやフランス問題からユーロ安に追随した値動きを続けるも、2012年同様にECBは動きを見せてくる可能性が高く、リスクの巻き戻しから白金標準先物もユーロ安で売られだした9318円に向けて戻りを強めて来ると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げ止まり、シグナルは下げている。RCIでは短期が切り上げ、長期は維持している。また指数平滑移動平均線のレンジが縮小しており、日足が8962円に向けた戻りが強まると思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 6,005,000 円(2026 年 10 月 5 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 89,980 円(2026 年 10 月 5 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>